

◎適切な育苗管理を継続し、移植に向けて苗を仕上げましょう。

◎適期移植&活着促進で本田生育スタートダッシュ！

東北地方1か月予報（仙台管区気象台 4/20 公表）
向こう1か月（4/22～5/21）の気温 **低い確率50%**

1 育苗後半の管理

硬化期(1.5葉～)以降の温度管理

温度

徐々に低温に慣らしましょう。移植1週間前からは昼夜ハウスやトンネルを開放し、外気温に慣らしましょう。

日中
15～20℃

夜間
8℃以上

ムレ苗が発生しやすいステージです。**遮光資材の掛けっぱなし、床温の過度な低下**は、根の活力を低下させ、ムレ苗発生を助長するので、避けましょう。

灌水

朝のうち（床温がまだ低い時間帯）にたっぷり水をかけましょう。床土が白く乾いたり、葉が巻き始めたら部分的に灌水しましょう。ただし午後3時以降は灌水を避けましょう。

高密度播種（密苗、密播）では特に注意！

- ①苗が老化しやすいので、慣行育苗以上に高温を避ける。
- ②苗の蒸散量が多いので十分に灌水する。
- ③苗の生育が停滞する前に移植する。

2 移植で肝心なのはタイミング&植え方

タイミング

移植適期は5月10日～20日頃です。移植時期が遅れると穂数の確保が難しくなります（右図）。

移植は天候が温和な日に行いましょう。低温や強風の日の移植は、植え傷みのダメージが大きく、活着が遅くなります。

植え方

栽植密度は坪当たり70株程度、植込本数は1株当たり4～5本（㎡当たり植付本数100本前後）が基本です。極端な疎植は、天候不順の影響を受けやすく、茎数不足や精玄米粒数歩合低下等のリスクを高めます。植付け深は3cm程度とします。深植えにすると、分けつ発生が抑制され、茎数が増えません。

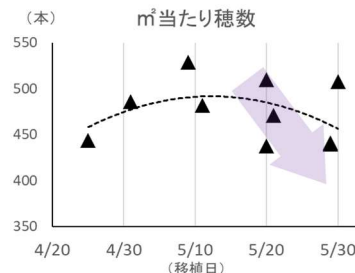
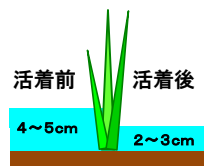


図 つや姫の移植時期と穂数の関係
（水田農業試験場 2007年～2009年）

3 移植後はメリハリある水管理で初期生育促進

- ①活着するまでは水深4～5cmにして、苗を保護し、新根の発生を促します。
- ②活着したら（新葉が見えたら）、水深2～3cmの浅水管理に切り替え、分けつ発生を促します。強風や低温が続くときは、一時的に水深をやや深めにして稲体を保護しましょう。
- ③**ワキ防止**のため、一発処理除草剤を散布する前に一度、**水交換または軽い田干し**を行いましょう。
- ④一発処理除草剤を散布した後、7日間は止水し、落水・かけ流しは控えましょう。



春季農作業事故防止強化期間 4/1～6/10 実施中！

忙しい時ほど慎重に